

なぜ、PCR検査ボックス なんでしょう？

エアシールド(空間防御)さえしていれば、
大袈裟でなく簡易的なものでいいんじゃないの？



シールドさえしていれば 大丈夫??

確かにPCR検査の際の、飛沫感染を防止する為のものとして、被検者と検体採取者との間に「シールド」さえあれば…布カーテンや段ボールなどでも有効だと思われれます。

しかしながら、大前提として飛沫感染を防止する為に「常に清潔」な状態を保たねばならないのは当然の事です。

段ボールシールドの危険性

「常に清潔」な状態を保つためには、検体採取の作業毎に消毒しなければなりません。消毒薬剤のスプレー噴射、及びその拭き取り時の湿気そのものに、段ボール素材のシールドは耐久性がありません。

安価で即応性あって、使い捨てが基本としても、その導入から組立・廃棄と考えれば、コスト的にも多にマイナスです。

また保管状態によっては、湿気からカビや害虫の温床となり、医療用の設備としては「選択の余地なし」なのは明らかです。

継続して「消毒」を行える からこそその価値

弊社のPCR検査ボックスは、医療現場での多角的な運用を考慮し、アルミフレームやステンレスフレームを枠組みとし、アルミ複合板と透明アクリルとで、軽量で高耐久性を両立した製品で、もちろん検体採取の作業毎の消毒作業にも有効です。

さらに検体採取シールド空間「サリバミュコサ」は、消毒の耐薬性を第一に考え、塩化ビニール樹脂カイダック(住友ベークライト社)を使用。これにより医療現場の標準的な消毒薬である「次亜鉛素酸ナトリウム希釈液」での消毒が可能です。

インフルエンザ抗体検査に 「引き続き」有効活用

この都度の一連の感染騒動に対する、医療機関からの切実な要望から生まれたPCR検査ボックスですが、毎年冬季に懸念される「インフルエンザ抗体検査」にも有効活用される事も期待されています。

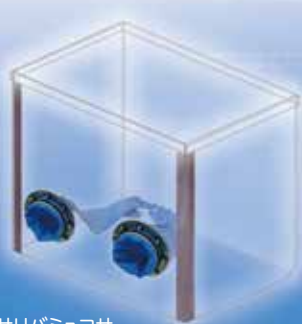
医療機関の皆さんの献身的な努力により、一連の感染騒動が終息に至った際にも、引き続き活用できるように…長期運用を考慮し、構造的にしっかりとした製品の導入をお勧めします。

半世紀に渡る、ものづくりの 技術から生まれる製品

本来、屋外広告業の弊社は、半世紀に渡る社業で培われたものづくりのノウハウと技術を活かし、感染対策の製品を数多く手がけてきました。

これら感染対策製品は、多くの医療現場にて有効に活用して頂きたい想いから、離島を含む日本全国の医療機関へ発送可能、アフターメンテナンスも対応して参ります。

これからも、医療従事者の生の声を聞きながら、現場で活用して頂くべく、より良い製品を生み出して参ります。



サリバミュコサ



スピュータムサククションボックス



ビルインクリニック用
PCR検査ボックス



屋内・屋外テント内用
PCR検査ボックス